

「免許状更新講習」

～この体験が生きる力を育てる～

- ◆期 日 平成22年10月16日(土)、17日(日)、23日(土)
- ◆会 場 国立能登青少年交流の家
- ◆対 象 小学校教諭 30名(中学校・高等学校教諭も可)
- ◆参加者 29名(小学校教諭23名, 中学校教諭2名, 高等学校教諭2名, 特別支援学校教諭2名)
- ◆講 師 岡部昌樹(金沢星稜大学教授)
村井万寿夫(金沢星稜大学教授)
池田幸應(金沢星稜大学教授)
小開誠一(金沢海上保安部警備救難課救難係長)・他4名
国立能登青少年交流の家企画指導専門職
- ◆主 催 金沢星稜大学
- ◆共 催 国立能登青少年交流の家

1 趣 旨

教員が、学習指導要領改訂で示された児童・生徒の「体験活動」の必要性について一層の理解を深め、またその実習体験をすることにより、教育内容の充実に資する。

2 ねらい

- (1) 新しい学習指導要領に示されている体験活動の必要性についての知識を深める。
- (2) 実習を行うことにより、体験活動の指導力を高める。
- (3) 体験活動を行う上での危機管理能力、安全に対する能力を高める。

3 日 程

《10/16(土)》

8:50 開講式

9:00 講義「体験活動の教育的意義」(池田幸應教授)

[内容] 子どもたちの発達段階に配慮した体験活動のあり方と指導者に求められる役割や資質について理解する。

11:10 講義・演習「体験学習法・新聞紙タワー」

(主任企画指導専門職)

[内容] 子どものコミュニケーション能力の向上を図る活動「新聞紙タワー」を体験する。



- 13:10 講義「体験活動と安全管理」(村井万寿夫教授)
〔内容〕体験活動における安全管理の基本的な考え方や、活動前と活動中の安全管理及び事故への対応方法について理解する。



- 15:30 講義・演習「体験学習法・なぞの宝島」
(主任企画指導専門職)

〔内容〕子どものコミュニケーション能力の向上を図る活動「なぞの宝島」を体験する。

《10/17 (日)》

- 9:00 講義・実習「火起こし体験と野外炊飯」(主任企画指導専門職)

〔内容〕火起こしと野外炊飯を実際に体験し、活動中の危険を知ったり、危険に対する予防策や対処方法を考えたりする。

- 13:00 講義・実習「水難救助講習・訓練」
(小開誠一金沢海上保安部警備救難課救難係長
・他4名)

〔内容〕水辺活動の危険性について知り、予防策を理解する。また、事故が起こった際の対処法を、様々なケースについて経験する。



- 14:30 講義・実習「いかだ活動体験」

〔内容〕いかだ活動を実際に体験し、活動中の危険を知ったり、危険に対する予防策や対処方法を考えたりする。

《10/23 (土)》

- 9:00 実習「ポイントオリエンテーリング」
(企画指導専門職)

〔内容〕野外活動であるオリエンテーリングを実際に体験し、活動中の危険を知ったり、危険に対する予防策や対処方法を考えたりする。



- 13:00 講義「学習指導要領と体験活動」(岡部昌樹教授)

〔内容〕学習指導要領における体験活動の位置づけや、教育課程の編成に体験活動を組み込む方法について理解する。

- 15:10 履修認定試験

- 16:15 閉講式

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ 金沢星稜大学と当施設の共催で実施したため、お互いの専門性を生かしながら、スムーズにかつ効果的に実施することができた。今後とも継続が可能である。
- ・ 新しい学習指導要領に示されている「体験活動」の必要性や重要性について理解してもらうことができた。
- ・ 体験学習法や、火おこし体験などを実際に参加者が行うことにより、学校の教育現場ですぐに活用できることを実感してもらうことができた。
- ・ 体験活動を行う際の安全管理について、事故の実例を挙げた講義や、刃物や火を使った実習などで理解を深めることができた。
- ・ 講義と実習が一方に偏ることなく、バランスよく日程を組むことができたため、参加者にも好評であった。

(2) 課題

- ・ 申込締め切り日が実施日に近かったため、参加者への詳細発送が遅くなってしまい、参加者に不安を与えてしまった。今後は締め切りをもっと早めに設定し、詳細を早めに知らせる必要がある。
- ・ 「水難救助講習・訓練」は、普通の研修では経験できないので好評だったが、水に入っている時間が長かったため、参加者の一部の方は体が冷えてしまった。水から上がっての休憩時間を多めに取る必要があった。
- ・ 参加者アンケートで、「日程がきつい」という意見と「余裕があった」という意見が半々だった。30代、40代、50代という年齢差を考え、内容を考えていく必要がある。

(3) 参加者の感想等

【印象に残ったこと】

- ・ 現場の教職員が体験活動について、どのようなスキルを身につけていけばよいのかについて考えさせられた。
- ・ すべての教科に通じることなので、小学校の教員にはこのような更新講習を受講してほしい。
- ・ 人数が少なく寂しい感じがしたが、反対にすごくていねいに教えていただいた。
- ・ オリエンテーリングで最後までポイントを回れなかったことが心残りだったが、最後までできなかった児童・生徒がどんな気持ちなのかがわかって、優しい気持ちになれた。
- ・ 講義中の「体験活動の安全＝危険を予測する能力を高める」という言葉が心に残った。

【ためになったこと】

- ・ いつもは子どもたちに指示を出してさせている立場だが、今回は自分でやってみることができたので、本当に何が難しく何が危険であるかということがわかった。

- ・ 子どもたちとともに野外炊飯，オリエンテーリング，テント設営などを行う機会があれば自信を持って楽しく教えることができそうだ。
- ・ 体験活動を重視した講習だったので五感にしみわたる講習として心と体に残った。
- ・ 近年，野外で体験活動をするのがなかったため“安全”に関して疎くなっていたが，今回の講習で再認識できた。

【その他】

- ・ 試験は，たとえば「今回の講習で学んだことを踏まえて，2泊3日宿泊学習を計画しなさい」といった答えのない問題がいいと思った。
- ・ 講師の先生も職員の方もとても親切で熱心だった。細かいところへの心配りも大変うれしかった。
- ・ 今後外で活動することがあれば，自分も子どもたちといっしょにもっと自然を楽しみたい。



実習「火起こし体験」



講義・演習「体験学習法・なぞの宝島」